

NATAS Holidays 2013 【東北・仙台ブースにおける活動支援】

シンガポール事務所

1 概要

今回の NATAS でも、昨年に引き続き、東北・仙台ブース（仙台市および東北観光推進機構による出展）において活動支援を行いました。

NATAS 開催日に先立ち、仙台市および東北観光推進機構の職員がシンガポール国内旅行会社および関係機関等を訪問のうえ、市場動向を調査するとともに、当ブースでは、通常の東北地方観光案内に加えて、下記の催し・取り組みを行い、海外からの観光客誘致に努めました。

- ブース来場者に対し東北地方の観光に関するアンケート調査実施。回答者には「むすび丸」（仙台市のキャラクター）ハンカチを提供。
- 仙台観光コンベンション協会による facebook のファン獲得施策として、「いいね！」をクリックした来場者に対し、むすび丸缶バッジを配布。

当ブースは、ジャパンパビリオンの角に立地し、東北の秋の象徴であるプラスチック製の紅葉をブース壁面に貼り付けていたため、秋らしい装飾が人目を引いていました。来場者がブース装飾を写真におさめるなど、多くの来場者が訪れました。



紅葉で彩られた東北・仙台ブースに訪れる来場者

来場者からは、紅葉や桜のベストシーズンと名所、おすすめの温泉、東北旅行のベストシーズン、郷土料理・名物についての質問が寄せられ、出展者の説明に熱心に耳を傾けていました。また、樹氷などの冬のコンテンツはあまり知られておらず、写真等を見せて説明をしたところ非常に高い関心を示していました。

一方では、「北海道の情報はあるか」「東京に行きたいのだが」など、他地域の情報を求められることも多く、「東北はどこにあるのですか」というように場所も知られていない場合もあるなど、シンガポールにおける認知度の低さがいまだ課題とも言えるでしょう。

また、タイミングが悪いことに、NATAS 開催前日の8月15日、シンガポール主要紙「The Straits Times」に福島第一原子力発電所の汚染水流出に関する記事が大きく掲載されました。この影響が大きかったせいか、ブース来訪者の約3分の1の方々から、放射線量や汚染水流出事故の影響に関する質問が寄せられ、シンガポール政府による放射線量情報をプリントアウトのうえブースに配備し「仙台市はシンガポールより数値が低いいため安心して訪れてほしい」旨を説明し、対応しました。

2 所 感

震災から約2年半が経過し、他の東南アジア諸国よりも自然災害・放射能問題に敏感なシンガポールの旅行者もそろそろ東北地方に目を向けていただけるかと思っていた矢先の汚染水流出報道は、外国人観光客誘致に大きなダメージを与えたことを実感しました。

NATAS 開催中に情報交換をした現地旅行会社の方々からも「東北への送客は難しい・回復が遅い」など消極的な意見が上がっており、また開催1日前の汚染水報道は旅行会社ブースを訪問した来場者にも大きく影響していたようです。

こうした状況の中、東北・仙台ブースには日本旅行リピーターの中老年夫婦・女性グループ、また日本が好きで各地の温泉を巡っている若者が訪れ、熱心に東北地方の状況を質問されました。このようなコアな「日本ファン」の方々は、放射能問題についても正しい理解をされており、日本の自然・味・人の魅力が凝縮されている東北地方に深い関心を示していることから、今後、東北地方への観光客誘致については、「初めて日本に行く」という旅行者ではなく、すでに東京・大阪・北海道・富士山などの人気観光地に行っており、これらの観光地とは異なった行き先を探している訪日旅行リピーターをメインターゲットにすることが重要なのでは、と思った次第です。

(NATAS Travel 2013 参加に伴う聞き取り等)

(吉田所長補佐 岩手県派遣)

